

## 「初等外国語の指導法」の評価

英語教育講座・池野修

### 1. 授業の概要

「初等外国語の指導法」は、「教科又は教職に関する科目」の枠にある3年次前学期開講の科目であり、次のような内容をもつ授業科目である。

小学校「外国語」「外国語活動」を担当する教員に必要な専門知識・技能（基礎）の基礎の習得を目指す。これまでの小学校英語、学習指導要領、「外国語」「外国語活動」の授業や単元の構成、評価のあり方、小中高連携、児童や学校の多様性への対応などのトピックについて学び、授業実践DVDを活用した授業分析、学習指導案の作成、様々な英語活動の体験、模擬授業などを通して、授業構想力や授業省察力などを向上させる。

この授業の主要な目標は以下の6つである。

- (1) 小学校「外国語」「外国語活動」担当教員の問題を自分の問題として考えることができるようになっている。「外国語（活動）」教員に対する当事者意識を持つことができるようになっている。
- (2) 新学習指導要領「外国語」「外国語活動」の内容や特徴について理解している。
- (3) *We Can!* 及び *Let's Try!* などの教材について、その趣旨、構成、特徴、使用上の留意点などについて理解している。
- (4) 学習指導案（「外国語」「外国語活動」）に関して、その構成、授業目標の設定の仕方、その他重要な留意点を理解している。
- (5) 「数」「時間割」「将来の夢」などのテーマ単元の活動を体験することを通して、「外国語（活動）」の活動バリエーションについての知識を獲得している。
- (6) 授業実践DVDの視聴と分析を通して、「外国語（活動）」授業の分析の観点を理解している。

これらの目標を達成するために、授業では、現在までの小学校英語の変遷の概観から始まり、様々な活動体験と留意点の確認、新学習指導要領の理解、授業実践DVDを用いた授業分析、英語発音講座まで様々な内容を扱った（2.3の表2を参照）。

この授業は選択科目であるが、2020年度より小学校高学年で「外国語」が必修教科となること（実際には本年度より前倒して実施している）、教育実

習直前の学期での授業であったことなどもおそらく理由で、比較的多くの学生（50数名）がこの授業を履修した。

### 2. 授業の評価

#### 2.1. 授業評価方法

授業の成果を評価するために、学期末に授業アンケートを実施した。質問内容は、(1) 授業目標の達成度、(2) 扱った内容の有用性、(3) 課題と改善の提案（「あなたが授業担当者であれば、この授業のどの部分をどのように変えるか、なぜか」などについてである。なお、最後まで授業を履修した受講生50名全員から回答を得た。

#### 2.2. 授業目標の達成度

本授業の目標の達成度について、「1」（＝全く達成できなかった）～「5」（＝十分に達成できた）の5件法尺度で受講生に回答を求めた。調査結果を表1に示す。

表1  
目標の達成度の認識

	目標	平均値 (標準偏差)
1	「外国語」「外国語活動」担当者としての当事者意識	4.36 (0.56)
2	学習指導要領の理解	3.92 (0.63)
3	<i>We Can!</i> 及び <i>Let's Try!</i> などの教材の特徴の理解	3.76 (0.82)
4	学習指導案の理解	4.00 (0.76)
5	「外国語（活動）」バリエーションについての知識の獲得	4.32 (0.62)
6	授業実践DVDの視聴と分析を通して、「外国語（活動）」授業分析の観点的獲得	4.08 (0.63)

結果が示すように、特に(1)「外国語」担当者としての当事者意識の高揚に関する目標と(5)授業で実施する活動のバリエーション理解に関する目標の達成は強く実感されている。一方、文部科学省が作った教材である *We Can!* 及び *Let's Try!* については、十分な時間を取って説明ができ

なかったこともあり、目標達成度の認識はそれ程高くない。この目標については、受講生が実際にデジタル教材・教科書を使ってみないと分からない部分も大きいのではないかと考えおり、どのレベルまでをこの授業で達成しようとするかについては再検討したい。

### 2.3. 扱った内容の有用性

本授業で扱った内容の有用性についても、「1」（＝全く有用でなかった）～「5」（＝大変有用であった）の5件法尺度で受講生に回答を求めた。結果を表2に示す。

表2

授業内容の有用性についての評価

	授業内容	平均値 (標準偏差)
A	これまでの小学校外国語(英語)の概観	4.04 (0.70)
B	様々な活動の体験	4.69 (0.47)
C	「外国語(活動)」の留意点(全42項目)の確認	4.69 (0.47)
D	授業実践DVDの視聴と省察	4.38 (0.60)
E	学習指導要領の内容の確認	4.36 (0.75)
F	文字指導の様々な活動の体験と留意点の確認	4.50 (0.58)
G	小学校「外国語」担当者のための英語発音講座	4.50 (0.65)
H	小学校「外国語」担当者のための英語再入門	4.42 (0.64)

どの内容についても、5段階で評価で平均値が4.0を超えていることから、概ねその有用性は認識されていると言える。特に、(B) 様々な英語活動の体験、(C) 活動体験に基づく留意点の確認、(F) 文字指導の活動の体験と省察、(G) 英語発音講座は大変高い評価を得ている。(A)～(H)の内容は次年度も引き続き扱い、さらに充実させるつもりである。

授業内容については、自由記述でも回答を求めた。肯定的な評価が多くあったが、以下はそのいくつかである。

- どの回の授業も得られる知識が多く、自分ではきっとこの授業を受けていなければ思いつくことのなかった発想や着眼点に気づかされました。体験的に学ぶことができ、児童の視点から授業を見ることで、有用性や充実度を理解することができました。

- 今回の「初等外国語の指導法」の授業は、他の授業と比べてグループ活動やいろいろな人と関わる活動が多く、とても学びのある楽しい授業だった。いろいろな人と意見を交換することで、自分では気づけなかったことに気づくことができた。
- 私は元々中高の英語が苦手だったのでこの授業は当初とても不安でした。しかし、指導法では、どのようなことが求められていて、こんな活動では...などがわかりやすく活動を通して学べたので、自分の英語に自信はありませんが、授業を作って指導するということには前向きになりました。

### 2.4. 授業の課題と改善方法

この「初等外国語の指導法」は今年度初めて実施したものであり、様々な課題も明らかになった。特に、学習指導案については、その仕組みや作成上の留意点についての説明は行なったが、受講生が実際に外国語学習指導案を作成するという課題は行うことができなかった。また、受講生による模擬授業もぜひ実施したかったのであるが、実現できなかった。50名程度の人数のクラスで、どのような形で模擬授業を実施するか、一部の受講生のみが実施する形にするのであれば、模擬授業者/その他の受講生に対する目標や評価をどうするか、などの点も検討していかなければならない。

授業改善については、アンケートでも、「あなたが授業担当者であれば、この授業のどの部分をどのように変えるか、なぜか」という質問をして、受講生に意見を求めた。気になったものとして次のものがあげられる。なお、[ ]は執筆者が書き加えた部分である。

- Read & Tell [=ペアになり、割り当てられた記事等を読み、その内容を相手に伝える活動]が途中から単調になっていたの、変化を加えつつ行う。
- グループワークでの座学 [=スクリーンを見ながら先生の説明を聞く時間]は体の向きを変えなければならないのでしんどく、文字を書きとりにくい。グループワークのとき以外は前を向きたい。
- 授業の5分前には終わって、コメントシートをしっかりと書く時間が欲しい。それも評価の対象にして欲しい。
- 体験→実践になるように、自分たちでオリジナルの活動を作り出す時間を入れる。
- Teacher talk の練習も兼ねて、毎時テーマを決めて英語で話す時間を用意する。
- 毎回の授業で small talk の活動を入れる。

- ・ 発音講座や英語再入門を1回にするのではなく、毎回小分けにする。
- ・ 「初等国語」と「初等国語科教育法」のように分けて、一方では英語特有の活動や学生の英語力向上を、もう一方では具体的な指導方やALTの活用などを学ぶというようにするのがいい。

最後の提案をのぞき、いずれも次年度の授業の構想と実施において生かしていきたいと考えている。

### 3. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

本授業は、「地域社会を核とした教育と研究のつながり」に関する内容を多く扱ったとは言えないが、愛媛県の小学校外国語の現状に関する情報を提供したり、県下での授業実践を紹介したりしたことはそれに該当すると考えられる。